

# 第2章 将来都市構想

ここまで、社会潮流と本市の現状を把握し、課題の整理をしてきました。ここでは、**目指すべきまちの姿（序章 P3）**の実現に向けて、新たな都市づくりのために**基本理念**を示していきます。また、この基本理念を実現するための**基本目標**を定め、さらにこれらを具現化し、将来の都市の骨格的な姿を描いた**将来都市構造**を示していきます。

## 1 新たな都市づくりのために

### 1. 都市づくりの「基本理念」

**目指すべきまちの姿**の実現に向けて、新たな都市づくりのために、都市づくりの**基本理念**を定めます。

#### 都市づくりの「基本理念」

#### 住みたくなる 住んで良かったと実感できるまち 活力あふれる ふるさと ふくろい

健康、自然、歴史、文化、防災、産業、及び地域コミュニティ等の様々な視点から、地域・企業・行政等の協働による都市づくりを推進し、「ふるさとふくろい」としての誇りや意識を醸成するとともに、まちの**“魅力”・“活気”・“にぎわい”**といった**都市活力**を創造することで、「**住みたくなる、住んでよかったと実感できる**」まちを目指します。

##### ●まちの“魅力”

安全・安心なまちづくりを進めることはもとより、暮らしたくなる拠点の創出、誰もが移動しやすい道路・公共交通の構築、自然と歴史文化が調和したまち、子育て・教育環境や健康に寄与した医療・福祉施設等の充実、生活を快適にする ICT 環境の構築等による“魅力”

##### ●まちの“活気”

農業、観光、工業、商業等の既存産業の維持・活性化や次世代産業地の整備による新規産業の誘致等、魅力的な働く場を確保し産業活力を創出することで生まれる“活気”

##### ●まちの“にぎわい”

遠州三山等の歴史文化資源を活用した観光振興、ラグビーワールドカップを契機としたまちの国際化や交流人口の拡大、都市拠点・地域拠点・集落拠点が連携し市全体が一体となることで生まれる人々のつながりと交流等による“にぎわい”

## 2. 都市づくりの「基本目標」

基本理念の実現に向けて、5つの都市づくりの**基本目標**を示していきます。

なお、各目標は、一つひとつ独立して達成するものではなく、相互に連携・補完しながら達成していくものです。

### 基本理念

住みたくなる  
活力あふれる  
住んで良かったと実感できるまち  
ふるさと  
ふくろい

## 都市づくりの「基本目標」

### 基本目標 1

#### にぎわい・活気あふれる都市づくり

- 都市拠点、地域拠点、集落拠点の連携により、市全体が一体となったにぎわい・活気あふれる都市を目指します。
- 既存産業の育成や新規産業の誘致による魅力的な働く場を確保し、産業活力を創出することで活気あふれる都市を目指します。
- 遠州三山等の歴史文化資源や JR 袋井駅・JR 愛野駅を中心として、多様な人が集まり交流することで、にぎわいあふれる都市を目指します。

### 基本目標 2

#### 健康・快適・歩いて暮らせる都市づくり

- 都市拠点、地域拠点には、求められる様々な都市機能を使いやすく配置し、集積することで生活利便性を高め、集落拠点は、地域コミュニティの強化を図ることで、誰もが快適に暮らすことができる都市を目指します。
- 都市機能の集積や利便性の高いネットワークの構築等により自動車に依存せず、歩いて暮らせる都市を目指します。
- 歩いて暮らすことにより、健康増進ができる都市を目指します。

### 基本目標 3

#### ネットワークを利用し誰もがつながることのできる都市づくり

- 道路・交通ネットワークの維持、向上や ICT 等によるネットワークの構築により、拠点間をつなぐことで、誰もがつながることのできる都市を目指します。
- ICT 等を活用した情報発信、受信等や物理的に移動しなくても通常の生活が維持することができる都市を目指します。
- 交通ネットワークにより安全、安心に誰もが移動できる都市を目指します。

### 基本目標 4

#### 自然・歴史文化が調和する都市づくり

- 丘陵地等の自然風景や田園、茶園等の農の風景を守り、自然と調和した都市を目指します。
- 旧東海道や遠州三山等の保全や歴史を継承し、歴史文化と調和した都市を目指します。

### 基本目標 5

#### 安全・安心を実感できる都市づくり

- 地震、津波、水害、土砂災害等の自然災害からかけがえない命や財産を守り、安全で安心して暮らし続けられる都市づくりを目指します。
- 道路、橋梁等の都市基盤施設や上下水道等のライフラインの耐震化、公共施設の避難所としての機能強化を進め、大規模災害に備え安心できる都市を目指します。

将来都市構造

### 基本目標1 にぎわい・活気あふれる都市づくり

- 都市拠点（JR 袋井駅周辺及び袋井市役所周辺）、地域拠点（JR 愛野駅周辺、上山梨地区周辺、浅羽支所周辺）、集落拠点（コミュニティセンター等の公共施設を中心としたエリア）の各拠点間をつなぐネットワークの維持・向上により連携強化を図ることで、市全体が一体となったにぎわい・活気あふれる都市を目指します。

また、都市づくりの推進にあたっては、地域が考え、発意できる機会を創出し、地域コミュニティの醸成を図ることで、まちへの誇りや意識を高めるとともに、自然環境や防災の取組など、それぞれの地域特性に応じた快適で質の高い環境の形成を目指します。
- 農業・観光・工業・商業等の既存産業の育成や（都）森町袋井インター通り線・県道磐田掛川線沿線付近等の交通等の利便性の高い地区では、新たな産業の立地を促す土地利用を推進することで、魅力的な働く場の確保を目指すとともに、市内産業の活性化を図り産業活力を創出することで、活気あふれる都市を目指します。
- 遠州三山、旧東海道松並木、袋井宿等の歴史文化資源の保全・活用や JR 袋井駅・JR 愛野駅を中心とした魅力ある都市づくりを進めることで、交流の活性化を促し、多様な人々が訪れ交流人口が拡大することで、にぎわいあふれる都市を目指します。

### 基本目標2 健康・快適・歩いて暮らせる都市づくり

- これまでに整備された都市基盤施設等の経年劣化による、維持及び更新費用の増大が見込まれる中で、高齢化・人口減少社会への対策として、今後はさらに、人口規模・構成に見合った効率的な基盤整備や機能集約を進めるとともに、無秩序な市街地の拡散を抑制し、コンパクトで、持続可能な都市を目指します。このため都市拠点、地域拠点は、役割に応じた求められる医療・福祉・商業施設等の都市機能の集積を目指します。また、集落拠点では、コミュニティセンターを活動拠点として、高齢者の支援や健康づくり、にぎわい、交流等の地域づくりの取組により、地域のつながりやコミュニティの強化を目指します。これら拠点については、地域特性に応じた生活利便性の高いまちづくりを推進し、誰もが快適に暮らすことのできる都市を目指します。
- 医療・福祉・商業施設等の都市機能の集積や、利便性の高いネットワークの構築により、自動車に依存せず、歩いて暮らせる都市を目指します。また、ライフステージが変わっても住み続けられるよう環境配慮型住宅、長期優良住宅等の魅力ある多様な住宅の誘導や、子育て世代の人口流入の推進・人口流出の抑制を図るため、快適で魅力的な都市を目指します。
- 各拠点の機能強化と併せて、歩行空間や自転車利用環境の整備を推進することで、過度に自動車に依存しない都市空間の創出を目指します。また、高南地区、JR 袋井駅、市役所周辺、総合体育館、総合健康センターを結ぶ歩行者動線を確認するなど、歩いて楽しいまちづくり事業を推進し、既存商業地の活性化と健康増進を併せて促進することで、健康・快適に歩いて暮らせる都市を目指します。

### 基本目標3 ネットワークを利用し誰もがつながることのできる都市づくり

- 道路については、必要な道路の整備や交差点の改良を進めるとともに、市域を一体的に連携する幹線道路のネットワークの形成を目指します。生活に密着した道路については、歩道の設置

や交差点改良等、公共交通機関の利便性向上につながる路線の整備を検討し、住宅地内では速度抑制等を促すなど、交通事故削減や住環境の向上を目指します。また、公共交通については、市民、行政及び運輸事業者との連携体制を強化し、公共交通の利便性やサービス水準の向上を図るとともに、JR 東海道本線や民間バス、自主運行バス、デマンドタクシー、地域協働運行バス等の適切な役割分担のもと、地域にとって効率的で効果的な交通体系の形成を目指します。

- ICT 等の利用環境の充実や公衆無線 LAN (Wi-Fi) の整備を進めることで、教育、文化、防災、健康、観光、産業等の分野において、利便性や生産性の高いサービスの向上を目指します。また、高齢者も含め社会全体で高度情報化への対応が求められているため、ICT 等を活用した生活の利便性の向上や高齢者の見守り、産業振興、さらに本人の物理的移動に制限があっても通常の生活が維持できる都市の形成を目指します。
- 子供から高齢者まで誰もが安全に安心して移動できる空間を形成するため、バリアフリー対策や交通安全対策を推進し、徒歩、自転車、公共交通を中心とした移動が可能となるような交通基盤の確保や次世代に良好な都市基盤施設を継承していくため、都市基盤施設の計画的な機能維持・更新を図ります。

#### 基本目標 4 自然・歴史文化が調和する都市づくり

- 小笠山丘陵地、宇刈丘陵地、磐田原台地等の斜面緑地、浅羽海岸、(二)太田川、(二)原野谷川等の本市の骨格を成す豊かな自然環境の保全・活用や、市街地周辺に広がる田園、茶園等の美しい農の風景を守るとともに、良好な自然景観や農の風景と調和した都市づくりを目指します。また、生物多様性の保全・再生・創造が図れるように、自然と共生した都市づくりを進めます。
- 旧東海道や遠州三山、袋井宿、旧中村洋裁学院、小笠山総合運動公園エコパ等の歴史的・文化的な資源やふくろい遠州の花火等のイベントを活かし、まちの個性やにぎわいを創出するとともに、街並みや周辺の自然と調和の取れた魅力ある都市づくりを目指します。

#### 基本目標 5 安全・安心を実感できる都市づくり

- 地震、津波、水害、土砂災害等の自然災害に備え、建物の耐震化や防潮堤の整備、河川改修、土砂災害防止施設の整備を進め、災害から市民のかけがえのない命や財産を守るため、防災の観点から都市計画を推進し、災害に強く安全で安心して暮らし続けられる都市づくりを目指します。また、密集市街地等の複合リスクの高い地区は、市民協働により地区計画制度導入等の総合的な対策を進めることで災害リスクの解消を目指し、避難地や避難路の確保、公共施設及び住宅の耐震化等、防災・減災を考慮した都市整備を推進し、地域の防災力向上を目指します。
- これまでに整備された都市基盤施設（道路、橋梁、上下水道等）については、老朽化が進行しているため、計画的な改修・更新を図るほか、耐震化等を実施することにより、防災力の強化を促進し、また、公共施設の避難所としての機能強化を図り、大規模災害に備え、安全で安心できる都市を目指します。

## 2

## 将来都市構造

都市づくりの**基本理念**、**基本目標**を具現化し、将来の都市の骨格的な姿を描いた**将来都市構造**を示していきます。

## 1. 都市構造の考え方

### 1-1. 広域的な連携

本市は、本市と大都市圏（首都圏、中京圏、京阪圏）を結ぶ、国土形成の骨格を成す**広域連携軸**（新東名高速道路、東名高速道路、国道1号、国道150号、JR東海道新幹線、JR東海道本線）が横断しています。東名高速道路の袋井ICを備えるとともに、新東名高速道路の森掛川ICへも近く、東京へは240km、名古屋へは140km、京阪神へは280kmと交通条件に恵まれています。この広域連携軸による**陸**（主要都市）・**海**（主要な港）・**空**（空港）の3つのゲートへのアクセスの優位性を活かし、自治体としての自律性をさらに高める必要があります。

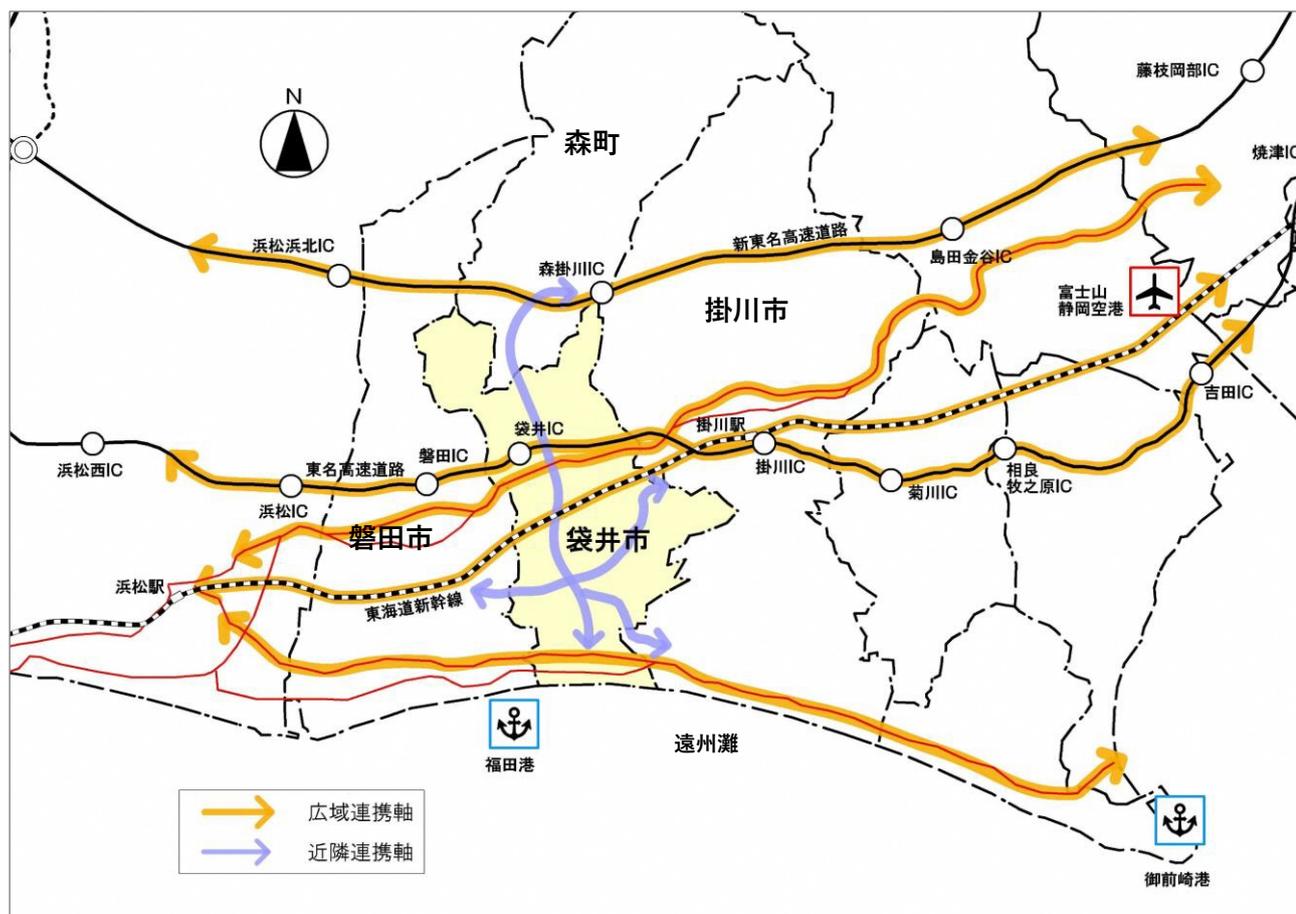
また、本市が東海地域の主たる一員として機能するとともに、産業、業務、研究開発、物流の拠点を創出していくためには、首都圏、中京圏、京阪圏や日本各地へと円滑に連絡する道路等のネットワークの維持・充実が必要です。



## 1-2. 周辺市町との連携

広域連携軸間や周辺市町を結ぶ**近隣連携軸**（（都）森町袋井インター通り線、市道湊川井線、県道磐田掛川線、県道袋井大須賀線）は、市内の産業・物流等や周辺市町との連携を支える重要な道路です。その中でも、東名高速道路袋井ICと新東名高速道路森掛川IC・遠州森町スマートICをつなぐ（都）森町袋井インター通り線の整備が望まれており、高速道路のダブルネットワークが確立されることで、静岡県を支える産業集積地である中東遠地域において、新たな産業立地の促進や地域産業の活性化、交流の促進による市の活性化が期待されているとともに、本県の空の玄関口である富士山静岡空港や、広域物流の拠点となる御前崎港等との連携等、様々な分野において広域的な交流が期待されます。また、これに加えて、多重性の確保による防災面への貢献が期待されているため、整備の促進を図る必要があります。

なお、大都市圏をつなぐ**広域連携軸**、周辺市町をつなぐ**近隣連携軸**は、一市だけでその機能を発揮できるものではありません。その地域に住む市民や企業等にとって、不可欠な都市基盤施設の連続性が確保されない場合、大きな障害となることから、周辺市町との連携を十分に踏まえたうえで都市づくりを進める必要があります。



## 2. 袋井市の目指す都市構造

今後は、人口減少や少子高齢化が一層進展することを踏まえ、市街地の拡大を抑制するとともに、これまで整備されてきた都市基盤施設等を活かした、活力あふれる拠点形成、効率よい土地利用、利便性の高い交通基盤が必要です。このため、市域のバランスを考慮した土地利用の規制誘導や、拠点間を効果的に連絡する交通施設を基本とし、誰もが快適に暮らしていける持続可能なコンパクトな都市構造への転換が求められています。

本市においては、**都市拠点**、**地域拠点**、**集落拠点**のさらなる“機能強化”と“役割を明確化”するとともに、それぞれの拠点を“つなぐ”ネットワークの維持・充実を図ることで**3層構造**からなる**拠点間の連携を強化し、市が一体となったコンパクトな都市構造**を目指します。

### ■目指す都市構造

## 都市拠点・地域拠点・集落拠点をネットワークでつなぐ ふくろい版多極ネットワーク都市構造

### 拠点の「機能強化」、「役割の明確化」、拠点間を「つなぐ」

#### 都市拠点



医療・福祉・商業施設等の都市機能の誘導・集積により機能強化を図るとともに、地域拠点や集落拠点の都市機能を補完する役割を担う。

#### 地域拠点



それぞれ地域に応じた都市機能の誘導・集積による機能強化と交通結節点としての機能強化を図り、集落拠点の都市機能を補完する役割を担う。

#### 集落拠点



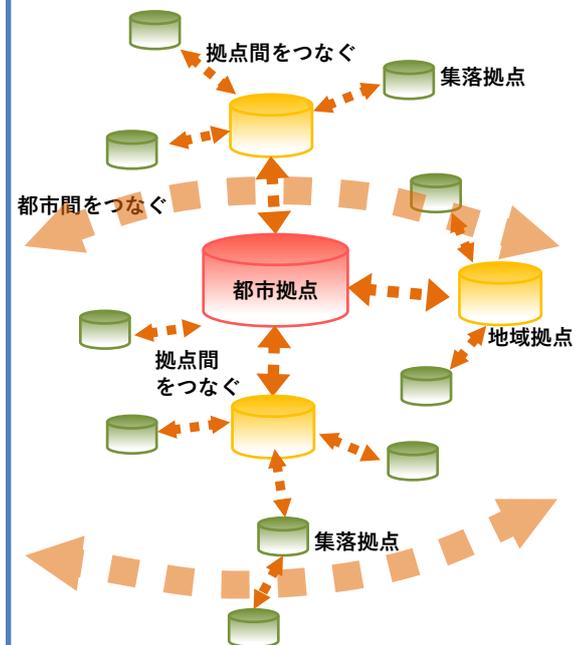
コミュニティセンター等を拠点とした地域づくりにより地域コミュニティの強化を図るとともに、市街地周辺に広がる、市域の約60%を占める農地や山林等を維持・保全し、美しい農の風景や丘陵地を守っていく役割を担う。

#### つなぐ



都市拠点、地域拠点、集落拠点をつなぐ道路・公共交通・ICT等のネットワークの維持・充実や他の都市をつなぐ広域的なネットワークの充実を図る。

### 目指す都市構造のイメージ

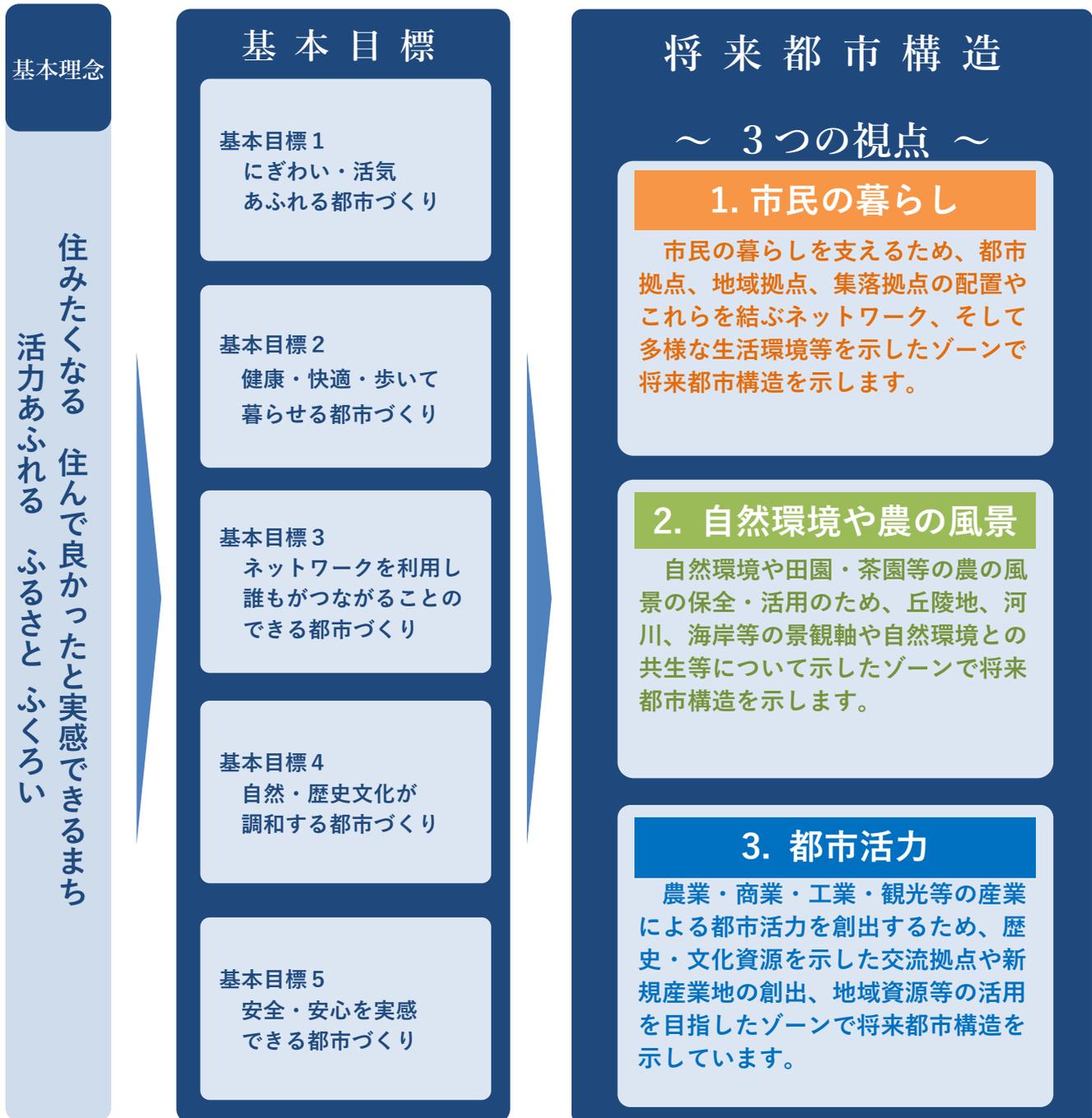


### 3. 将来都市構造

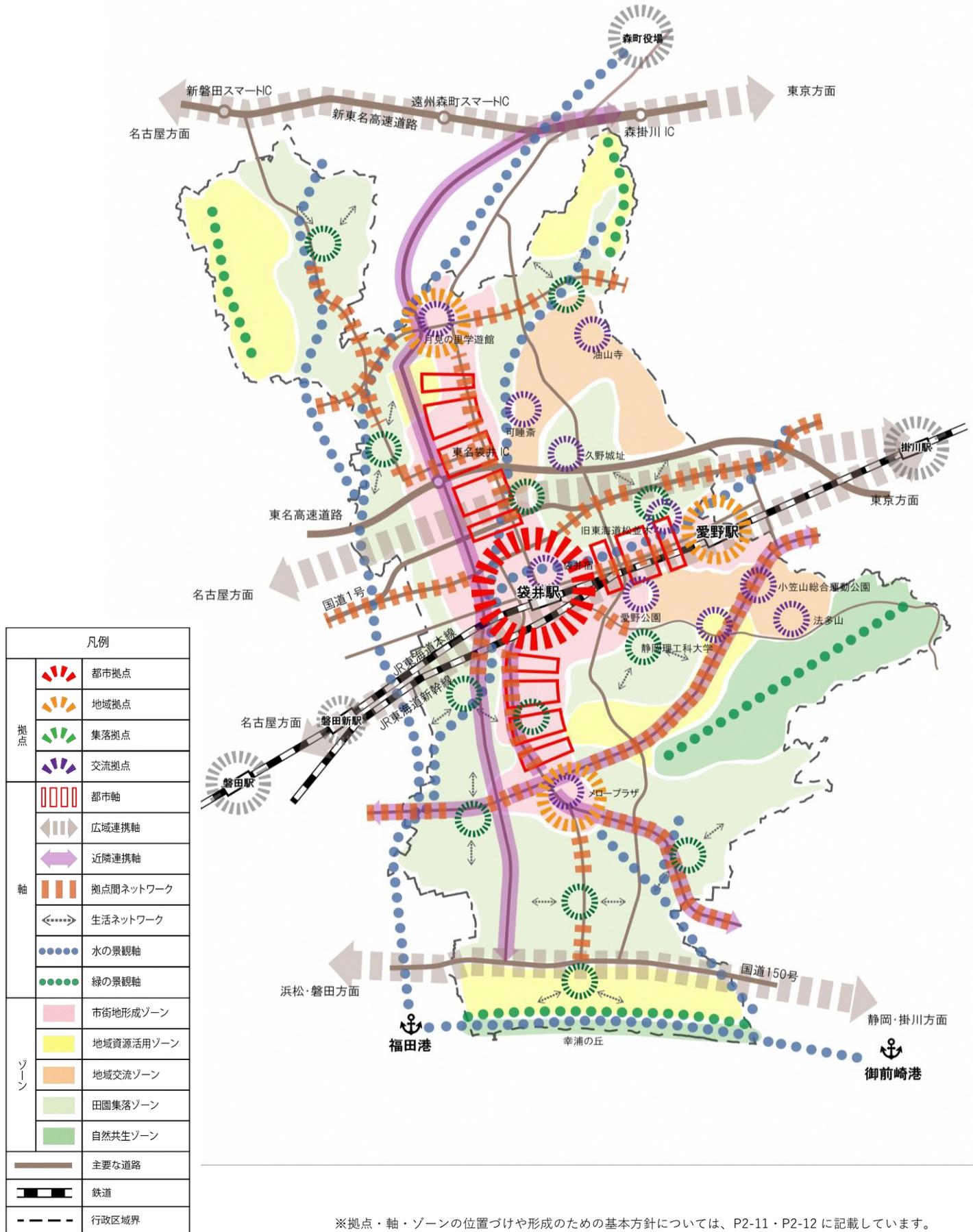
都市づくりの**基本理念**、**基本目標**を具現化するため、将来の都市の骨格的な姿を描いた**将来都市構造**を、居住・交流の核となる地域を示した「**拠点**」、都市内外の連携・交流を支える道路や丘陵地・河川等を示した「**軸**」、基本的な土地利用方針を示した「**ゾーン**」で示していきます。

さらに将来都市構造をよりわかりやすくするために「**市民の暮らし**」、「**自然環境や農の風景**」、「**都市活力**」の3つ視点に分類していきます。

#### ■「第2章 将来都市構想」の構成図



# 将来都市構造



※拠点・軸・ゾーンの位置づけや形成のための基本方針については、P2-11・P2-12に記載しています。

都市構造を構成する「拠点」・「軸」・「ゾーン」の位置づけや形成のための基本的な方針、さらに役割については以下の通りとします。

## 拠 点



### 都市拠点

JR 袋井駅周辺及び袋井市役所周辺

公共公益機能をはじめ、医療・福祉・商業施設等の都市機能の誘導・集積を図るとともに、これらと調和のとれた魅力とにぎわいのある住環境の創出を図り、居住の維持・誘導を目指します。また、鉄道・バス路線等による交通利便性を活かし、交通結節点としての機能強化を図るとともに、購買客や観光交流客等が集散し回遊する市の顔となる中心核を目指します。

なお、都市拠点は、地域拠点と集落拠点の機能を補完する役割を担います。



### 地域拠点

上山梨地区周辺、JR 愛野駅周辺、浅羽支所周辺

既存の都市機能を維持しながら、地域に応じた都市機能を誘導・集積することで、生活利便性を高めるとともに、地域活動の中心となる拠点の形成を目指します。また、交通結節点としての機能強化を図るとともに、拠点としての特性を活かした個性的で魅力ある住環境を創出することで、居住の維持・誘導を目指します。

なお、地域拠点は、集落拠点の機能を補完する役割を担います。



### 集落拠点

コミュニティセンター等の公共施設を中心としたエリア

コミュニティセンター等の公共施設を中心としたエリアを集落拠点として位置づけ、都市拠点や地域拠点との連携を図りながら、コミュニティセンターを活動拠点とした高齢者の支援や健康づくり、にぎわいや交流等の地域づくりに取組めます。また、地域のつながりやコミュニティの強化を図りつつ、既存の住環境を維持するとともに、良好な集落地の形成を目指します。

市街地周辺に広がる、市域の約 60%を占める農地や山林等を維持・保全し、美しい農の風景や丘陵地を守っていく役割を担います。



### 交流拠点

遠州三山（法多山、可睡齋、油山寺）、旧東海道松並木、袋井宿、小笠山総合運動公園エコパ、メロープラザ、月見の里学遊館 等

市内外の多様な人々の交流を促すため、遠州三山等の歴史的資源や小笠山総合運動公園エコパ等の文化・レクリエーション施設等、魅力ある観光資源を交流拠点として位置づけ、これらを活用することで観光振興等の中心として、にぎわいのある拠点の形成を目指します。

## 軸

 都市軸

県道袋井春野線、県道袋井大須賀線、JR 東海道本線

中心核となる都市拠点を中心に、連続したにぎわいと活気ある市街地空間を維持・向上させるため、都市拠点と3つの地域拠点を効果的に結ぶ南北と東西の道路を都市軸として位置づけます。

 広域連携軸

新東名高速道路、東名高速道路、国道1号、国道150号、JR 東海道新幹線、JR 東海道本線

周辺市町や大都市圏との広域的な連携を図るため、高速道路や広域幹線道路、鉄道を広域連携軸として位置づけます。

 近隣連携軸

(都) 森町袋井インター通り線、県道袋井大須賀線、県道磐田掛川線

隣接する市町との連携・交流を促すため、広域連携軸や拠点間を結ぶ主要幹線道路を近隣連携軸として位置づけます。

 景観軸

宇刈丘陵地、小笠山丘陵地、磐田原平地、浅羽海岸、(一) 太田川、(二) 原野谷川、浅羽海岸等

浅羽海岸、(一) 太田川、(二) 原野谷川等の河川、小笠山丘陵地等からなる緑の稜線は、かけがえのない景観資源であり、都市の背景となるため景観軸として位置づけます。これらの美しい自然環境と景観資源を保全するとともに、自然と市民生活とが密接にかかわれるよう、市民、観光客のレクリエーション活動の場として活用を図ります。

## ゾーン

 市街地形成ゾーン

都市拠点と地域拠点を中心に安全で快適な都市基盤施設の整備と景観形成に配慮したうおいのある都市空間の形成を図るとともに、子どもから高齢者まで誰もが住みやすい居住エリアの形成を図る地域を、市街地形成ゾーンとして位置づけています。また、商業・工業・業務機能を維持・誘導することで活力あふれる地域を目指します。

 地域資源活用ゾーン

近隣連携軸に近接した地域を中心に立地特性を活かして新たな産業の創出を目指す地域と、周辺の集落地や景観と調和しながら、地域特有の資源を活かし交流を創出する地域を地域資源活用ゾーンとして位置づけています。

 地域交流ゾーン

観光・レクリエーション等の情報発信を図ることで、多くの人々が訪れ、にぎわいを創出する地域を地域交流ゾーンとして位置づけています。また、交流拠点を中心に、旧東海道、袋井宿、遠州三山等や、小笠山総合運動公園エコパ等の歴史・文化施設や、豊かな田園風景、小笠山、浅羽海岸等の地域資源が調和した都市空間を形成するとともに、本市固有の歴史資源を積極的に保全・活用し、交流機能の強化を図ることで活力創出の場を目指します。

 田園集落ゾーン

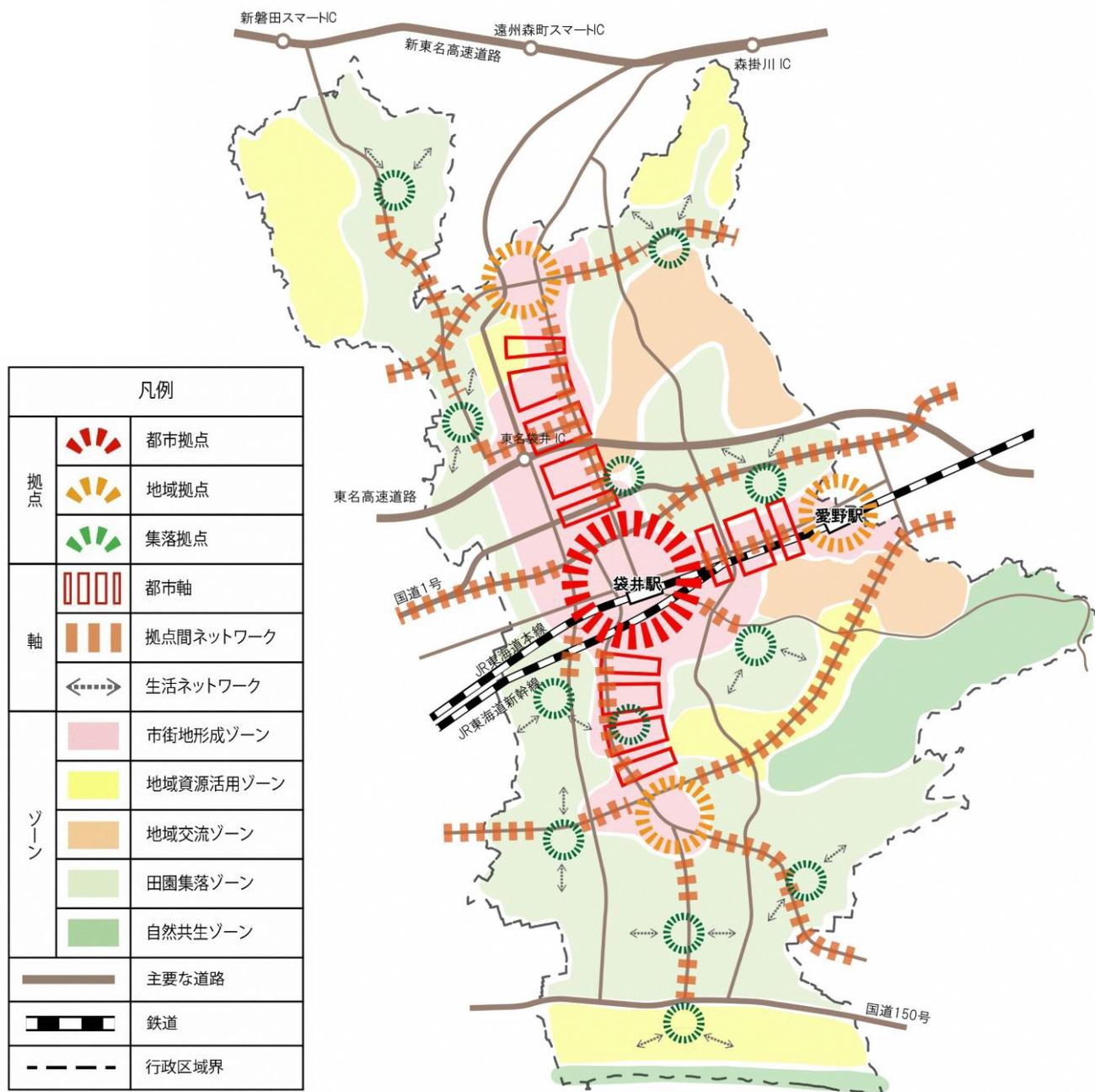
市街地周辺の集落地と、その周辺に広がる、生産基盤が整備され、保水や水源かん養等の公益的な機能を有する優れた農地を田園集落ゾーンとして位置づけています。また、これらの農地は貴重な生産・環境資源として、適切な保全を図るとともに、魅力的な農の風景の中で健康的でゆとりある生活を営む集落地の形成を目指します。

 自然共生ゾーン

人々のゆとり・やすらぎの創出を目指す地域を自然共生ゾーンとして位置づけています。また、本市独自の景観を形成する小笠山丘陵地、浅羽海岸の保全を図るとともに、自然環境と調和した都市空間の形成を目指します。

# 1. 市民の暮らし

市民の暮らしを支える拠点やゾーンを形成し、これらをネットワークでつなげます。

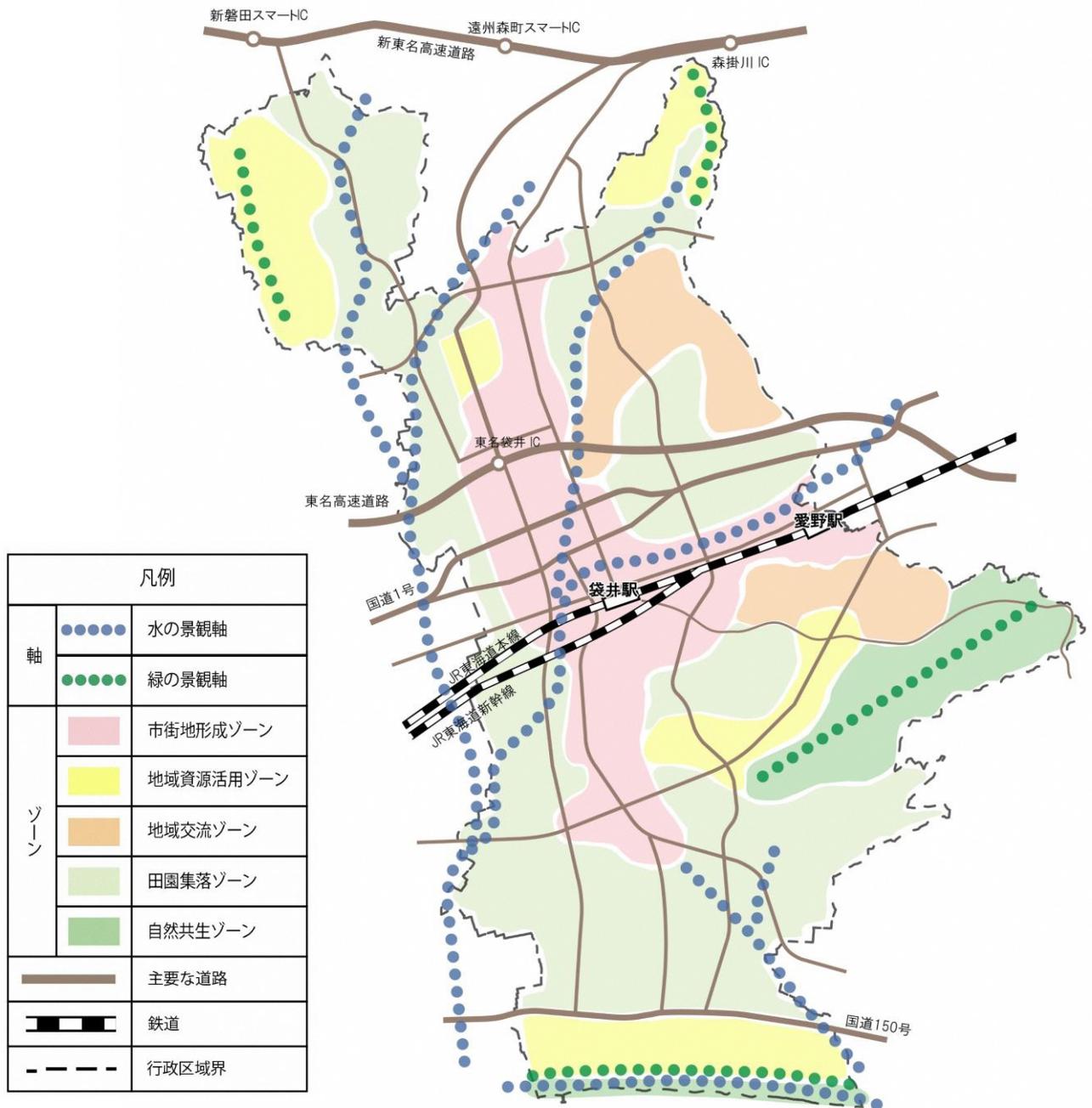


市街地形成ゾーンは利便性の高い都市生活環境の形成、田園集落ゾーンは郊外のゆとりある生活環境の形成、自然共生ゾーンは山あいの自然に囲まれた生活環境の形成、地域資源活用ゾーンや地域交流ゾーンは地域資源と調和のとれた生活環境の形成など、多様な生活環境を創出します。

また、医療・福祉・商業施設等の都市機能の誘導・集積により機能強化を図るとともに、地域拠点や集落拠点の都市機能を補完する都市拠点、地域に応じた都市機能の誘導・集積による機能強化と交通結節点としての機能強化を図り、集落拠点の都市機能を補完する地域拠点、コミュニティセンター等を拠点とした地域づくりにより、地域コミュニティの強化を図るとともに、市街地周辺に広がる美しい農の風景や丘陵地を守っていく役割を担う集落拠点を配置し、その拠点間をつなぐ道路、公共交通、ICT等の拠点間ネットワークの維持・向上により、市が一体となった都市の形成を目指します。さらに、これら都市拠点と地域拠点を効果的に結ぶ南北と東西の道路を都市軸として位置づけ、適正な土地利用を誘導することで、連続したにぎわいと活気ある市街地空間の維持・向上を目指します。

## 2. 自然環境や農の風景等

自然環境を保全・活用します。田園・茶園等の農の風景を守ります。

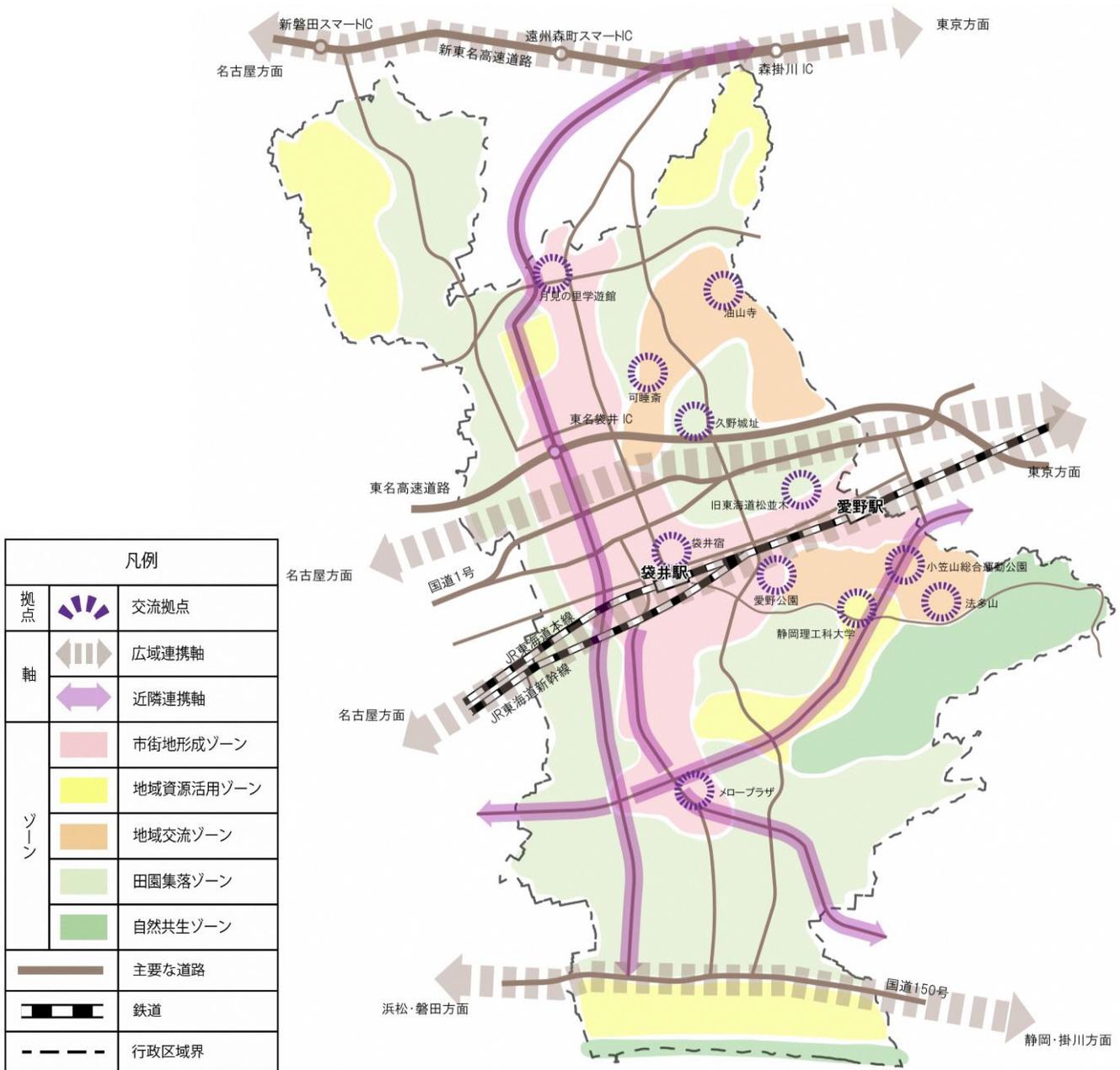


豊かな自然環境を有する地域を**自然共生ゾーン**、田園や茶園等の農の風景が広がる地域を**田園集落ゾーン**、宇刈丘陵地や小笠山丘陵地等の稜線や浅羽海岸の松林を**緑の景観軸**、浅羽海岸や(二)太田川、(二)原野谷川等の河川を**水の景観軸**として位置づけ、これらの美しい自然環境や景観資源、農地等を保全するとともに、それぞれが市民生活と密接にかかわれるよう利活用を図ります。

また、都市的土地利用を基本とする**市街地形成ゾーン**は、公園や街路樹、河川等の水とみどりを保全・活用することで、うるおいのある市街地の形成を図るとともに、市民の健康づくりや、やすらぎの空間形成を促進します。

### 3. 都市活力

都市活力を創出するため、交流拠点、地域資源活用ゾーン、地域交流ゾーン等を形成し、地域特性を活かした産業を展開します。



遠州三山等の歴史的資源や、小笠山総合運動公園エコパ、メロープラザ、月見の里学遊館等の文化資源等を**交流拠点**とし、遠州三山や小笠山総合運動公園エコパを中心とした地域等を**地域交流ゾーン**として位置づけ、歴史・文化資源等を活用することで、にぎわいのある都市の形成を目指します。

また、新東名高速道路、東名高速道路、国道1号、国道150号、JR東海道新幹線、JR東海道本線を**広域連携軸**として位置づけ、周辺市町や大都市圏との広域的な連携を図ります。さらに広域連携軸や周辺市町を結ぶ(都)森町袋井インター通り線、市道湊川井線、県道磐田掛川線、県道袋井大須賀線を**近隣連携軸**として位置づけ、隣接する市町との連携・交流を促進します。

**地域資源活用ゾーン**では、立地特性を活かして新たな産業の誘導や周辺の集落地や景観と調和しながら、地域特有の資源を活かした交流を目指します。また、**市街地形成ゾーン**では、市街地の商業・工業等の多様な産業の維持・育成を図り、**田園集落ゾーン**では、市街地周辺で農業や観光等の産業の維持・向上を図ることで、都市活力の創出を目指します。